

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

論述式と記述式の併用だが、論述式が中心。論述式の解答分量は、問題Ⅰ以外は解答用紙の行数により指定している。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

昨年から1問増えて大問5題になった。論述問題数は21問から14問に減少し、問題Ⅱ～Ⅴの解答行数も42行から25行に減少したが、問題Ⅰが350字以内という長字数の問題であり、記述問題が3問から16問に増加している。

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

設問間での難易度の差はあるが、全体には昨年からやや易化した。

出題の特徴や昨年との変更点

昨年までの大問4題から1問増えて大問5題構成になった、問題Ⅰは歴史総合からの出題で近代、問題Ⅱは古代、問題Ⅲは中世、問題Ⅳは近世・近現代、問題Ⅴは近現代であった。例年、史料・図版・表・グラフなどの諸資料を利用した問題が出題されており、その傾向は今年も維持された。

新課程を踏まえた出題

問題Ⅰは世界史との共通問題であり、歴史総合からの出題と考えられる。手塚治虫の漫画『一輝まんだら』を利用し、「漫画の人物たちのセリフも参考」にすることも求めている。近代中国史、とりわけ義和団戦争に至る歴史的背景とその後の経過が問われており、旧課程で学習した受験生には厳しかったと思われる。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	論述式	義和団戦争の歴史的背景とその後の経過	歴史総合からの出題とみられ、世界史との共通問題であった。手塚治虫の漫画を利用し、「セリフも参考に」することを求めている。「この状況」が義和団戦争であることが判断できれば、大筋を間違えることはないと思う。指定語句から「アヘン戦争」から開始する必要があるが、「歴史的背景」を書き込みすぎると「経過」が粗くなるので注意したい。	標準
II	論述式	古代における対外交流	問1：「倭国王」が卑弥呼であることに気づければ容易。2世紀後半の倭国大乱から始めたい。 問2：「7世紀以降」について、新羅との関係を組み込めるかどうかで得点差がつきそう。 問3：「相互関係」に過不足なく論及できたかどうかポイントになる。	やや易 標準 標準

地歴公民(日本史)

名古屋大学 文学部、情報学部（人間・社会情報学科）（前期） 2 / 2

Ⅲ	論述式 記述式	中世の東北・北 陸・関東地方	問1：(b)の「能力」をどう表現するかが難しいが、 (a)・(c)には気づきたい。 問2：(c)の答え方に困ったかも知れない。 問3：空欄 <input type="text" value="ア"/> は文章Cの「音読の仕方に強い癖 があった」などがヒントになる。 問4：問われてはいないが、空欄 <input type="text" value="イ"/> には「雪」 が入る。	やや易 標準 標準 やや易
Ⅳ	論述式 記述式	近世から近代にお ける蝦夷地（北海 道）とアイヌ	問1：下線部の後の展開から「商場知行制」を想起し たい。 問2：交易対象から漁場労働者への変化に論及した い。 問3：「目的」としては、蝦夷地開発とロシアとの交 易可能性を指摘したい。 問4：樺太・千島交換条約を想起できれば容易。 問5：基本問題である。	やや易 標準 やや易 やや易 やや易
Ⅴ	論述式 記述式	近現代日本の女性 の運動	問1：空欄 <input type="text" value="B"/> は、「母性保護論争」と「文学者」 から与謝野晶子を想起できたかどうか。 問2：史料の丁寧な読み取りが必要。市川房枝が「こ のような意見を述べた」理由を戦前期の彼女の動向を 踏まえて論じる必要があるが、やや難度が高い。 問3（1）：1960年の線の落ち込み方に留意したい。 問3（2）：「社会や雇用形態のあり方の変化」を指摘 できたかどうか。 （1）・（2）とも設問の「労働力人口」の定義が示さ れておらず、グラフの数値の捉え方に困ったのではな いかわかれる。	標準 やや難 標準 やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断
しています。

<学習対策>

単純な知識だけで答えられる問題が少なく、相当な歴史的理解力・応用力が必要な問題が中心であ
り、歴史用語の暗記では対応できない。歴史的背景や因果関係を意識した学習が必要である。また、
史料・図版・統計資料などを利用した問題が多く、諸資料の読解力を養成しておく必要があろう。
加えて、設問の要求を確実に把握し、簡潔に文章化する表現力も必要である。